

農業技術情報

令和6年10月1日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

| | |
|----------------|--------------|
| 十勝普及センター十勝東部支所 | 015-572-3128 |
| J A 幕別町 | 0155-54-4118 |
| J A さつない | 56-2131 |
| J A 帯広大正 | 64-4591 |
| 日甜幕別原料事務所 | 54-2756 |
| 幕別町農林課 | 54-6605 |

★各作物の生育・作業の遅速（幕別町10月1日）（ ）内は平年値

| 作物名 | 遅速日数 | 生育および作業状況 | 生育期節 |
|-----------|------|--|--------------------|
| 秋まき小麦 | 早 1 | は種始 9/21 (9/18) は種期 9/24 (9/25) は種終 10/2 (10/2) | 出芽期 10/2 (10/3) |
| 馬鈴しょ | — | 収穫期 9/6 (9/7) 収穫終 9/25 (10/5) | |
| 大豆 | 早 8 | 茎長 59.8 (77.4) cm 葉数 9.5 (9.9) 枚 莢数 652.8 (608.4) 個/m ² 主茎節数 11.5 (11.9) | 成熟期 9/22 (9/30) |
| 小豆 | 早 10 | 茎長 55.2 (65.4) cm 葉数 11.2 (12.1) 枚 莢数 403.2 (349.0) 個/m ² 主茎節数 12.2 (13.1) 収穫始 9/23 (9/25) 収穫期 10/ (10/11) | 成熟期 9/8 (9/18) |
| 菜豆（金時） | — | 収穫期 9/8 (9/13) 収穫終 9/19 (9/24) | |
| てんさい（移植） | 早 6 | 根周 47.2 (41.7) cm | |
| てんさい（直播） | 早 6 | 根周 38.5 (32.8) cm | |
| 牧草 | | 収穫終 9/17 (9/17) | |
| 飼料用とうもろこし | | 収穫期 9/16 (9/21) 収穫終 9/24 (10/6) | 黄熟期 9/3 (9/14) |
| ながいも（マルチ） | 遅 5 | いも長 84.4 (75.5) cm いも重 1244.7 (1229.1) g いも径 64.9 (66.2) mm 乾物率 11.6 (13.2) % | |

畑 作

薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。
薬量および倍率は基準内に抑え、薬害やドリフトには十分注意してください。

<秋まき小麦>

1 雑草対策

イネ科雑草を抑制できるのは秋期だけです。特に連作の場合はイネ科雑草の増加が懸念されます。

は種後出芽前の土壌処理が基本ですが、やむをえず処理できなかった場合も、出芽後の除草剤散布は必ず行いましょう（8/30付農業技術情報表4参照）。

<てんさい>

1 収穫

収穫作業は天候に留意しながら、製糖工場や関係農協等と協議して計画的に進める。

2 地力の維持・増進

地力の維持・増進を図るため、ビートトップの鋤込みは収穫直後に行い、分解を促進する。ただし、土壌水分が多いときなど、土壌の物理性を悪化させるような条件では無理して鋤込む必要はない。

3 翌年の作付予定ほ場及び床土の準備

翌年にてんさいの作付けを計画しているほ場では、サブソイラ等による排水対策や土壌診断結果に基づく石灰質資材の投入など、適切な酸度矯正を行う。床土は、土壌水分を30%程度とし、保管に当たっては被覆して凍結や雨水の浸入を防ぐ。

黄化病(旧:西部萎黄病)の発生が見られたほ場では、ビートトップや掘り残し等の収穫後残渣物が翌春に周辺ほ場への伝搬の保毒源となりうるため、しっかりと鋤込み、土壌に埋め込む。

また、媒介虫であるモモアカアブラムシがほ場周辺のハウス等で越冬できないような対策(ハウスビニールの除去、雑草処理、野菜残渣の処理等)を行う。

<豆類>

1 小豆の収穫

収穫は平年より早く進んでいます。

やむを得ず高水分収穫し収穫物が高水分(18%以上)になる場合、コンテナ内での変質を防ぐため収穫後速やかに受け入れ先に搬入し、常温通風乾燥により乾燥します。

2 大豆の収穫

9/18付農業技術情報を参照。

<緑肥のすき込み>

9/18付農業技術情報を参照。

<「緑肥用えんばくのいもち病」の対策について>

9/18付農業技術情報を参照。

野 菜

<ながいも>

例年より、乾物率が低い傾向にあります(10月1日現在11.6%(平年13.2%))。いもの状態に応じて、つる切り日を判断してください。

乾物率の平年値と過去2年の推移(幕別町作況より)

| 作況日 | 平年 | R4 | R5 | R6 |
|-------|------|------|------|------|
| 9/15 | 11.0 | 12.8 | 9.1 | 8.5 |
| 10/1 | 13.2 | 13.6 | 11.0 | 11.6 |
| 10/15 | 15.2 | 14.4 | 11.9 | - |
| 11/1 | 15.9 | 15.2 | 13.7 | - |

※乾物率の目安

(低)15%未満、(中)15~17%、(高)17%以上
乾物率が低いと貯蔵性、食味の低下に影響します。

(1)つる切り、つる降ろし

- ・実施前に試し掘りをし、尻部が丸く硬くなっていることを確認してから行ってください。
 - ・つる切り、つる降ろしは、茎葉が黄変した後に実施してください。黄変前のつる切りは未熟いもの原因になるため注意してください。
 - ・茎葉黄変になる前に霜を受けたほ場では、10月20日以降につる切りを行ってください。*
- ※2006年に東部管内で実施した調査で、10月20日以前(茎葉黄変前)に強い霜を受けて茎葉が枯死しても、いもへの養分転流は進むことが確認されています。

日没が早まり視界もすぐに悪くなります。

薄暗がりでは機械の周辺で作業する人が見えにくくなります。

クラクションを鳴らし、周囲に合図してからゆっくり発進するようにしましょう。

- ・公道を通行する場合は、早めにライトをつけ、夜光反射板や低速車マークを装着しましょう。
- ・収穫機の調整や詰まりものは、必ずエンジンを止めてから除去しましょう。
- ・衣服の袖口や裾はボタン・ファスナーを止めて、身体に密着させましょう。
- ・靴やステップが泥の付着により滑りやすくなります。機械ステップの昇降時は、十分注意しましょう。

※収穫残さ物のほ場での焼却は止めて堆肥化に努めましょう。